

追悼 花田俊典氏と『文献探究』

今西, 祐一郎
九州大学教授

<https://doi.org/10.15017/9090>

出版情報 : 文献探究. 43, pp.5-7, 2005-03-31. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

追悼 花田俊典氏と『文献探究』

今西祐一郎

私は九州大学の出身ではないが、昭和六十年に九州大学文学部へ赴任する以前から、花田氏とは面識があった。面識を得る以前に、花田氏の名前も知っていた。

専攻分野違いの、まだ若い氏の名前を知ったのは、創刊時代の『文献探究』によつてである。

『文献探究』創刊当時、私は前任校の京都府立大学文学部で、自分の研究室のとなりの空き部屋に一応仕分けはしてあるものの、製本もせずに雑然と並べられていた国文学関係の雑誌整理、バックナンバーの補充をしながら次々と製本屋に出すという役目を、自らに課していた。

そのようなこともあつて国文学雑誌に敏感になつていた私が、しかし、どのような形で『文献探究』にめぐり会つたかは、記憶が定かでない。当時、国語学の寿岳章子、樺島忠夫両教授が在職の京都府立大学に何号からかの寄贈があつたのだろうか、それとも京都大学の国文学研究室にあつたのを目にしたのだろうか。ともかく、さっそく研究室の名前でバックナンバーの入手

を編集部に依頼した覚えがある。「花田俊典」の名を知ったのはそのときであった。

花田氏との初対面は、同じく前任校の時代に、かつて静岡女子大学で同僚であった井上敏幸氏を福岡に訪ねたときである。井上氏はその夜の宴席に、私の高等学校の恩師穴山健先生とともに福岡女子大学の同僚花田氏を伴って現れ、紹介してくださったのである。場所は九州大学に赴任して以来今日まで世話になることの多い西中洲の「芝」であったはず。その席でも、『文献探究』が話題になり、私は花田氏に創刊時のバックナンバーを個人分として所望した記憶がある。

手書き原稿の簡易オフセット印刷による創刊号は、その「あとがき」に花田氏が中原中也の「幾時代かがありまして……」の詩を掲げて瑞々しい。氏はやがて九州大学教養部に移り、さらに大学院比較社会文化研究科の所属となって、公私にわたり活躍の場を拡げ、満を持して氏の専門分野に特化した近代文学研究誌『叙説』を創刊することになるが、その原点は『文献探究』であったと思う。

「癖」という語がふさわしい、今となっては伝説的な花田氏の徹底した資料蒐集ぶりは、氏が在学中に国文学の助教授であった中野三敏先生を思わせる。中野先生門下の近世文学研究者にはあまたの俊秀が輩出したけれども、資料蒐集という一面だけは、分野違いの花田氏によってもっとも本格的に継

承されたように、私には思われる。

その資料蒐集から咲き出たのが『清新な光景の軌跡―西日本戦後文学史―』である。西日本の 小さな物語 の発掘に努めながら、しかし氏が浮かび上がらせたのはそれら 小さな物語 と中央文壇の 大きな物語 との驚くべき繋がりであった。「清新な光景」とは、そのような花田氏の仕事にこそ冠せられるべき言葉であろう。

氏は私と同様、今日では減少の一途をたどる重度の喫煙家だった。違いは花田氏が酒をたしなまない点。私の醉眠中も、氏の頭は冴えて煙草と珈琲を座右に好きな仕事に没頭していたのであろう。それが過労の一因であったとすれば、やはり残念の一語につきる。

一周忌を迎えんとして、あらためて花田俊典氏のご冥福を祈るのみ。

(いまにし ゆういちろう・九州大学教授)